

# Forward CPEC-UH



第001号

■編集：  
兵庫県立大学淡路キャンパス  
（緑環境景観マネジメント研究科）  
連携事業推進室

## ■『CPEC-UH』創刊に際して

平田富士男（兵庫県立大学 連携事業推進委員会事務局長）  
（ 同 緑環境景観マネジメント研究科科長）

□大学間連携共同教育推進事業「コミュニティ・プランナー育成のための実践的教育課程の構築」がはじまりました。これは、兵庫県立大学と宮城大学とが共同して、今年度から新たに取り組む事業で、ともに被災地での復興を経験した地域の公立大学同士で、その経験を共有しながら、新たな人材育成カリキュラム構築をめざすものです。

この事業の最終目標は両大学で、グリーンデザイン、グリーンケア、グリーンビジネスなどのコミュニティ・プランナー（地域コミュニティの担い手となる人材）を育成するプログラムを設計確立し、その教育センター（Community Planner Education Center）を設置運営することです。

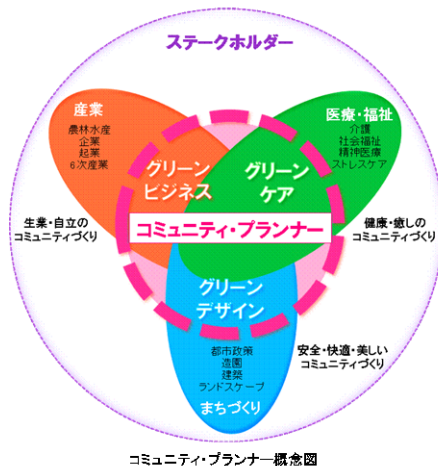
□兵庫県立大学（UH）では、その活動を定期広報するCPEC-UH Forwardを創刊しました。

**取組名称：コミュニティ・プランナー育成のための実践的教育課程の構築**

**取組大学：宮城大学(代表校)、兵庫県立大学**

本取組は、宮城大学と兵庫県立大学が相互の強みを活かして連携し、地域社会が抱える課題解決と健全な地域コミュニティの担い手となる人材＝コミュニティ・プランナーを育成するための実践的人材育成の教育課程を構築するとともに、ステークホルダーと協働し、社会の要請に応え地域再生サイクルの原動力となる地域連携教育拠点(CPEC)の設置・運営を行うものである。

### 学生と地域住民がフィールドワークを織り交ぜながら共に学ぶ「コミュニティ・スクール」



グリーンデザイン、グリーンケア、グリーンビジネスをコア教育として、地域社会(ステークホルダー)から求められる人材の育成を行う

#### 目標1:「コミュニティ・プランナー育成プログラム」の設計と確立

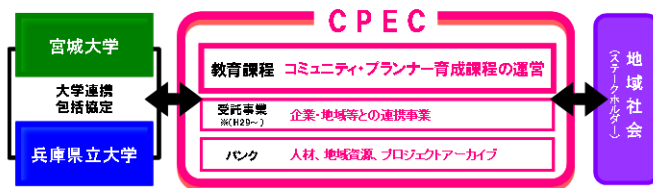
期待される成果 →コミュニティ・プランナー育成の体系的カリキュラム、テキスト、演習、教材開発  
→両校の共同教育として行うための基盤整備(遠隔授業システム等)

#### 目標2:「コミュニティ・プランナー教育センター(CPEC:シーベック)」(仮称)を設置運営

期待される成果 →CPECの組織体制や事業計画の確定と企画・運営・継続性の確保  
→CPECを核とした地域再生サイクルの起動

#### 目標3:社会ニーズに合った質の高い教育の提供と効率的な大学運営

期待される成果 →地域ステークホルダーと協働した教育コースの評価体制組織の形成  
→地域のニーズにあった実践的な人材の輩出  
→両校の教員派遣による、多様なコミュニティ・プランナー教育カリキュラムの提供  
→両校の有する実践的教育フィールドの有効活用。  
→遠隔授業施設等の整備による、学生教員の時間的、経済的、肉体的負担の軽減



連携大学、ステークホルダーが一体となったプログラム実施体制

## ■宮城大学-兵庫県立大学 合同会議（第1回）が開かれました

2012年10月19日（金）13時～15時半まで、宮城大学（大和キャンパス）本部棟3階大会議室で、両校の主要関係者が集まり、【大学間連携共同教育推進事業】～コミュニティ・プランナー育成のための実践的教育課程の構築～の合同会議が行われた。実質的な連携事業のスタートである。出席者は右表の34名。

宮城大・西垣学長と県立大・高坂副学長の挨拶から始まり、以下6項目の全体打合せが、行われた。

- 1) 会議の趣旨について（宮城大：森山教授）
- 2) 両学の体制について（宮城大：森山教授／兵庫県立大：平田研究科長）
- 3) 出席者自己紹介
- 4) 事業申請内容について（宮城大：平岡教授）
- 5) 今年度行動計画について（兵庫県立大：平田研究科長）
- 6) 両学合同意志決定機関の設立について（宮城大：蜂谷副参事）



■兵庫県立大学出席者



■宮城大学出席者

### 《兵庫県立大学》

No.	所属	職名	氏名
1		副学長	高坂 誠
2	事務局学務部	学務企画課長	小倉 陽子
3	緑環境研究科	研究科長	平田 富士男
4	景観園芸学校	副校長	久保田 茂
5	緑環境研究科	教授	斉藤 庸平
6	緑環境研究科	教授	美濃 伸之
7	緑環境研究科	准教授	豊田 正博
8	経営学部	学部長	池田 潔
9	地域ケア開発研究所	所長	山本 あい子
10	環境人間学部	教授	福島 徹

### 《宮城大学》

No.	所属	職名	氏名
1		理事長・学長	西垣 克
2		理事	園部 尚
3	看護学部	学部長	吉田 俊子
4	事業構想学部	学部長	蒔苗 耕司
5	食産業学部	学部長	齋藤 満保
6	看護学部	教授	小野 幸子
7	看護学部	教授	伊藤 ひろ子
8	事業構想学部	教授	宮原 育子
9	事業構想学部	教授	日原 広一
10	事業構想学部	教授	平岡 善浩
11	食産業学部	教授	森山 雅幸
12	食産業学部	教授	森本 素子
13	食産業学部	准教授	金内 誠
14	食産業学部	准教授	菊地 郁
15	食産業学部	助教	高橋 信人
16	地域振興事業部	部長	古川 隆
17	地域振興事業部	研究員	中嶋 紀世生
18	事務部	部長	千葉 幸太郎
19	事務部学務課	参事兼課長	成田 美子
20	事務部学務課	副参事	蜂谷 秀明
21	事務部学務課教務2	課長補佐（GL）	首藤 良幸
22	事務部学務課教務1	主幹（GL）	狩野 靖士
23	事務部学務課教務2	主幹	酒井 正志
24	事務部総務課広報G	主事	永浦 佳奈

## ■第1回兵庫県立大学・宮城大学合同会議における部会報告より(平成24年10月19日)

その後休憩を挟んで、各部会打合せが以下の6部会で行われた。各部会の班長による報告をもとに、協議概要は以下の通り。

### 【グリーンデザイン部会】 齊藤庸平

- ・「コミュニティ・プランナー」育成のための教育システムの構築・プログラム検討とともに大学院レベルでの育成プログラムを検討する。そのために、当研究科内に「グリーンデザイン班」を設け、景観デザイン部門と景観マネジメント部門教員が担当する。
- ・評価システムをより実効性のあるものにするために、ステークホルダーが誰かを明確にし、目標に沿った基準や方法を検討し、そのための組織や体制づくりを検討する。
- ・当面の課題としては、両大学に評価に関するワーキンググループを作り、相互連携体制を確立していく(調査分析・ヒアリング・アンケート調査実施など)ことなどを協議、確認した。

### 【グリーンケア部会】 豊田正博

- ・グリーンケアの概念・植物を使う療法の特徴の説明を行い、部会内での共通理解を図った結果、基本として「対象者の理解」と「緑の活かし方」が重要である点で参加者間の理解が得られた。
- ・具体的な活動として、来年度、国内外のグリーンケアを視察する必要がある。今年度、淡路で一度、グリーンケアに関する研修を行ってはどうかという意見が出された。
- ・カリキュラムに関しては、現在の学部の単位に新たに20単位を加えることは難しく、また、単位を減らして科目を入れることも難しいことから、学部の核となる科目を増やす中で必要な単位が履修できることが望ましい。現実的な開講方法としては、休業期間などを利用した集中講義などが考えられる。
- ・大学院レベルまでの教育を考えるにはまだ検討すべき問題が多い。

### 【グリーンビジネス部会】 池田 潔

- ・コミュニティプランナーは宮城・兵庫両地域での相互のフィールド学習、講義を通じた人材育成を想定している。
- ・両大学で共通に実施されている科目(インターシップ等)、一方でしか実施されていない科目がある。相互補完の可能性についても議論した。
- ・学生の相互交流に関して①単位の取り扱い②宿泊場の確保③移動に伴う費用負担などの問題点が挙げられた。

### 【ホームページ・遠隔システム部会】 美濃伸之

- ・今後、取り組む必要があると思われる事項の検討を行った。(メンバー間のタスク管理や情報共有のためのグループウェアの確立、遠隔会議・講義システムの導入など)
- ・ホームページ立ち上げには早急に着手する必要があるという認識で一致したが、具体的な担当にまでは話が至らなかった。
- ・連携事業のイメージを共有できるようなロゴ/イメージ図などをデザインし、情報発信の際に使用する必要ではないか。また関連する各種イベントなどへの出展も考慮する必要があるのではないかと指摘があった。

### 【全体調整・事務管理部会】 小倉陽子

- ・文科省からの24年度の交付決定は11月末になるのではないかと。それに伴い、補助金振込みは1月下旬になる見込み。それまでの支出は立替払いで対応する。
- ・経費の取り扱い、24年度精算報告の方法などについて議論した。
- ・国際シンポは宮城大が共催することで事務処理が進んでいるが詳細は調整が必要。
- ・その他シンポ(宮城:11月に地域連携センターで実施。兵庫:1月に防災教育センターで実施予定のもの)を本事業に位置づけたい。その際、「防災コミュニティ」というキーワードを入れる。

### 【市民ボランティア部会】 平田富士男

- ・兵庫県立大学における「花と緑のもつ力」を生かした復興まちづくりの取り組み、被災地で花と緑のまちづくりを展開するボランティアおよびボランティア・リーダーの育成について紹介した。当面、今年度末あたりに兵庫での被災・復興まちづくりの経験を持つボランティアなどが宮城を訪れて、宮城のボランティアを目指す市民と交流するなどの試行プログラムを検討したい。
- ・学生が市民ボランティア育成の企画運営にかかわること、CPECの将来の事業としての位置づけ、宮城・兵庫両県のボランティアの交流などを目指して検討していく。



■宮城大学大和キャンパス

**【これからの予定】**

- 連携事業推進協議会（仮称） 設立総会
  - ・2012年11月30日（金）13:30～
  - ・宮城大学（大和キャンパス）
- 引き続き、宮城県下震災被災地視察
  - ・2012年12月1日（土）
- 園芸療法課程10周年記念行事 前日祭
  - ・2012年12月8日（土）9:50～17:00
  - ・兵庫県立淡路景観園芸学校（兵庫県立大学淡路キャンパス）
- 園芸療法課程10周年記念行事
 

「園芸療法 NEXT STAGE へ～これからの10年を考える」記念式典・国際シンポジウム

  - ・2012年12月9日（日）13:00～17:00
  - ・兵庫県公館

**【連携事業推進室から】**

兵庫県立大学淡路キャンパス（緑環境景観マネジメント研究科）に大学間連携事業推進室が設置されました。

1階事務室北側に大学間連携事業推進室 Promotion Office for Inter-University Collaborative Program という室名板が付いております。

10月中旬より、以下の3名体制でスタートしております。気楽にお立ち寄りください。

- 室長：小林 郁雄（こばやし いくお）  
（10月12日より、はっきり60代後半）
- 室長補佐：横田 優子（よこた ゆうこ）  
（10月22日より、さて40代かな？）
- 事務：月生 神奈（がっしょう かな）  
（11月1日より、たぶん20代後半）



■連携事業推進室（兵庫県立大学淡路キャンパス）

兵庫県立大学淡路キャンパス 大学間連携事業推進室  
 UNIVERSITY of HYOGO Promotion Office for Inter-University Collaborative Program  
 〒656-1726 兵庫県淡路市野島常盤 954-2 Phone/Fax 0799-82-3126  
 Hyogo-ken Awaji-shi Nojimatokiwa 954-2  
 E-mail suishinshitsu@awaji.ac.jp